様式Ⅲ-A1

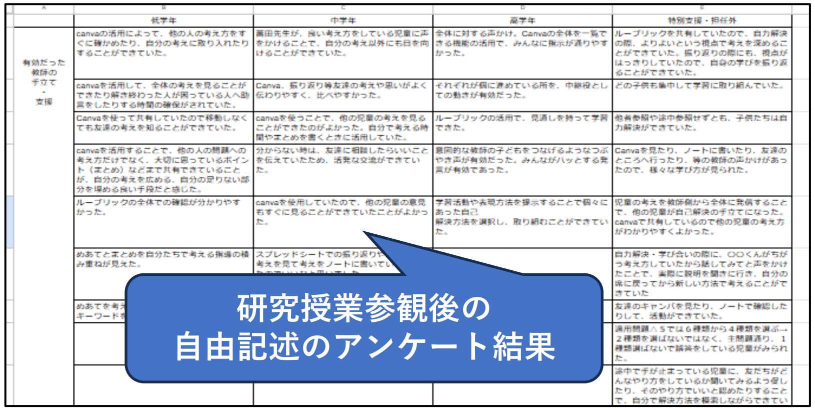
リーディングDXスクール事業 【AIパイロット校】

苅田町立与原小学校（福岡県）【指定校】

＜校務利用＞　③　アンケート結果（自由記述）の整理･分析　　ChatGPT3.5、4.0使用

行事後のアンケートや研修後の意見・感想の整理・分析にChatGPTを活用した。その結果、大量のデータを迅速かつ的確に分類・要約することができ、具体的な課題や今後の改善点を見出すことができた。特に以下の点が効果的であった。

○自由記述の回答をテーマごとに分類し、視覚的に示したこと
○肯定的意見と改善提案を明確に分けた要約
○アンケートデータに基づく改善提案の提示



	低学年	中学年	高学年	特別支援・担任外
有効だった教師の手立て・支援	canvaの活用によって、他の人の考え方をすぐに確かめたり、自分の考えに取り入れたりすることができていた。	藤田先生が、良い考え方をしている児童に声をかけることで、自分の考え以外にも目を向けることができていた。	全体に対する声かけ。Canvaの全体を一覧できる機能の活用で、みんなに指示が通りやすかった。	ルーブリックを共有していたので、自力解決の際、よりよいという視点で考えを深めることができていた。振り返りの際にも、視点がはっきりしていたので、自身の学びを振り返ることができていた。
	canvaを活用して、全体の考えを見ることができたり解き終わった人が困っている人へ助言をしたりする時間の確保がされていた。	Canva、振り返り等友達の考えや思いがよく伝わりやすく、比べやすかった。	それぞれが個に進めている所を、中継役としての動きが有効だった。	どの子供も集中して学習に取り組んでいた。
	Canvaを使って共有していたので移動しなくても友達の考えを知ることができていた。	canvaを使うことで、他の児童の考えを見ることができたのがよかった。自分で考える時間やまとめを書くときに活用していた。	ルーブリックの活用で、見通しを持って学習できた。	他者参照や途中参照せずとも、子供たちは自力解決ができていた。
	canvaを活用することで、他の人の問題への考え方だけでなく、大切に思っているポイント（まとめ）などまで共有できていることが、自分の考えを広める、自分の足りない部分を埋める良い手段だと感じた。	分からない時は、友達に相談したらいいことを伝えていたため、活発な交流ができていた。	意図的な教師の子どもをつなげるようなつぶやき声が有効だった。みんながハッとする発言が有効であった。	Canvaを見たり、ノートに書いたり、友達のところへ行ったり、等の教師の声かけがあったので、様々な学び方が見られた。
	ルーブリックの全体での確認が分かりやすかった。	canvaを使用していたので、他の児童の意見もすぐに見ることができていたことがよかった。	学習活動や表現方法を提示することで個々にあった自己 解決方法を選択し、取り組むことができていた。	児童の考えを教師側から全体に発信することで、他の児童が自己解決の手立てになった。canvaで共有しているので他の児童の考え方がわかりやすくよかった。
	めあてとまとめを自分たちで考える指導の積み重ねが見えた。	スプレッドシートでの振り返りや 考えを見て考えをノートに書いてい		自力解決・学び合いの際に、〇〇くんがちがう考え方していたから話してみてと声をかけたことで、実際に説明を聞きに行き、自分の席に戻ってから新しい方法で考えることができていた
	めあてを考え キーワードを			友達のキャンバを見たり、ノートで確認したりして、活動ができていた。
				適用問題△5では6種類から4種類を選ぶ→2種類を選ばないではなく、主問題通り、1種類選ばないで議論をしている児童がみられた。
				途中で手が止まっている児童に、友だちがどんなやり方をしているか聞いてみるよう促したり、そのやり方でいいと認めたりすることで、自分で解決方法を模索しながらできてい

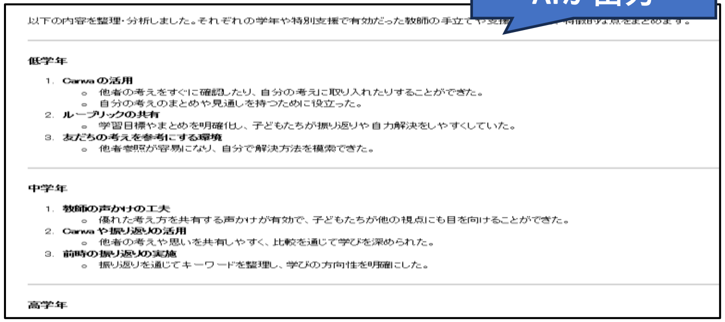
研究授業参観後の
自由記述のアンケート結果

Googleフォームなどでアンケートを実施し、自由記述の部分をまとめてプロンプトに貼り付け、次のような指示（プロンプト１～３）を一つずつ出していった。

＜プロンプト１＞

以下の小学校算数科授業後の教職員の意見･感想を整理･分析してください。
（ここにコピペ）

AIが出力



以下の内容を整理・分析しました。それぞれの学年や特別支援で有効だった教師の手立てや支援 特徴的な点をまとめます。

低学年

1. **Canva の活用**
   - 他者の考えをすぐに確認したり、自分の考えに取り入れたりすることができた。
   - 自分の考えのまとめや見通しを持つために役立った。
2. **ルーブリックの共有**
   - 学習目標やまとめを明確化し、子どもたちが振り返りや自力解決をしやすくしていた。
3. **友だちの考えを参考にする環境**
   - 他者参照が容易になり、自分で解決方法を模索できた。

中学年

1. **教師の声かけの工夫**
   - 優れた考え方を共有する声かけが有効で、子どもたちが他の視点にも目を向けることができた。
2. **Canva や振り返りの活用**
   - 他者の考えや思いを共有しやすく、比較を通じて学びを深められた。
3. **前時の振り返りの実施**
   - 振り返りを通じてキーワードを整理し、学びの方向性を明確にした。

高学年

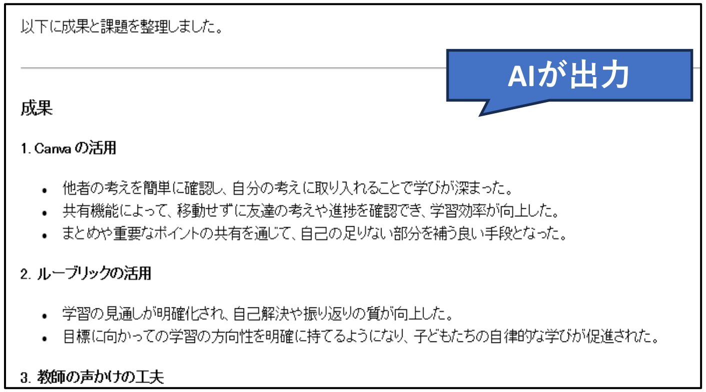
学校は様々なアンケートを実施するが、自由記述については、教師が結果を見て一覧にする、肯定意見と否定意見に分ける、分析する、改善案を提示する等、時間がかかっていた。

AIに集計や要約を任せ、提案された改善案が可能か、他に方法はないか等、創造的な仕事に時間をかけることが可能となった。

＜プロンプト２＞

上記の整理分析したものを、成果と課題に分けてください。

AIが出力



以下に成果と課題を整理しました。

成果

1. Canva の活用

- 他者の考えを簡単に確認し、自分の考えに取り入れることで学びが深まった。
- 共有機能によって、移動せずに友達の考えや進捗を確認でき、学習効率が向上した。
- まとめや重要なポイントの共有を通じて、自己の足りない部分を補う良い手段となった。

2. ルーブリックの活用

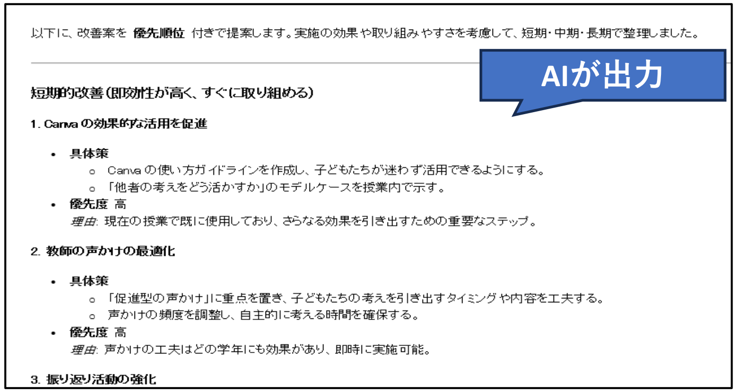
- 学習の見通しが明確化され、自己解決や振り返りの質が向上した。
- 目標に向かっての学習の方向性を明確に持てるようになり、子どもたちの自律的な学びが促進された。

3. 教師の声かけの工夫

＜プロンプト３＞

上記の成果と課題を踏まえて、優先順位を考えた取組の改善案を提案してください。

AIが出力



以下に、改善案を **優先順位** 付きで提案します。実施の効果や取り組みやすさを考慮して、短期・中期・長期で整理しました。

短期的改善（即効性が高く、すぐに取り組める）

1. Canva の効果的な活用を促進

- **具体策**
  - Canva の使い方ガイドラインを作成し、子どもたちが迷わず活用できるようにする。
  - 「他者の考えをどう活かすか」のモデルケースを授業内で示す。
- **優先度** 高
  理由: 現在の授業で既に使用しており、さらなる効果を引き出すための重要なステップ。

2. 教師の声かけの最適化

- **具体策**
  - 「促進型の声かけ」に重点を置き、子どもたちの考えを引き出すタイミングや内容を工夫する。
  - 声かけの頻度を調整し、自主的に考える時間を確保する。
- **優先度** 高
  理由: 声かけの工夫はどの学年にも効果があり、即時に実施可能。

3. 振り返り活動の強化